

# 共に或ることに重きを置いたイベント企画の報告 ～震災時の復興支援からの学び～

鈴木純子（一般社団法人日本リ・ファッション協会）

キーワード：心の復興 寄り添う その土地の文化・しきたりを重んじる

## 1. 目的

東日本大震災発生から約一ヶ月経ったころから、被災された方々に対し、イベントを通して「生きる力・復興への勇気が湧くような応援をしたい」との思いで様々な活動をしてきた。思いが良い形で実現し、被災された方にも運営等に関わったボランティアスタッフにも喜ばれたものもあれば、中には企画倒れで実現しなかったもの、被災地で窓口となってくださった方に精神的・体力的なご負担をかけてしまったものもあった。本発表では、これまでの活動から、復興イベントが果たす役割と企画・運営する際のポイントを検証する。

## 2. 方法

これまで我々が主催・出展などで関わったイベントと、連携先団体等が行ったイベントに、企画・準備段階から当日および最終報告までに関わった方々へ行ったインタビューを元に検証する。

対象イベントは、①主たるテーマが復興支援であること ②開催場所は被災地域内でもその他の地域でも可 ③企画・運営メンバーに被災地の方が入っていたことを条件とする。

## 3. インタビュー結果

- (1) 東北のために、被災者のために、と考えて提案することが簡単には受け入れてもらえない。
- (2) 受け入れてもらえない理由が、経済的なことや日常生活に戻っていない不便さからくる時間的・精神的負担よりも、人的要因が大きい。
- (3) 東日本大震災による被災は広範囲に及び、またその影響は複雑である。そのため、過去の震災支援と同じ考え、対応の仕方では通用しない。
- (4) イベントを含む復旧復興活動に対する具体的なイメージが、東北の方と外部からの支援者とは微妙に違うことが多々ある。
- (5) ひとつのイベントを実行するにあたりイメージのすり合わせをするには、話を通す人の順番、コミュニケーションの取り方、進めるペースなどにも“お土地柄”があることを痛感する。
- (6) 外部からの支援者は、迅速に復旧復興を進めたいと願うあまり、被災者の心に寄り添うことを忘れがち。
- (7) 支援者は思いが強い分、うまくことが進まないと感じたり心が折れることも。
- (8) 規模は小さくても、被災された方が「楽しかった」「達成感が得られた」「希望が見えた」など、気持がプラスになる結果を得られた場合、これまで障壁になっていた人的要因が解決される。
- (9) やっと芽が出て次のステップへと育ち始めたものがある反面、継続することのむずかしさに直面しているものもある。

#### 4. 考察

(1) 企画段階から関わる人数と、当日の来場者数は比例する。それは、イベント予算には比例しない。

(2) 企画段階または準備段階から被災地の方の考えを取り入れたものは、現地での協力体制が取れる。

(3) (1) と (2) から、押しつけではない当事者の方々による当事者の方々のためのイベントにすることで、内容的に充実でき来場者数的にもより多くの方にご参加いただける。

(4) 東北の方と関係を深めるには、時間をかけて信用を得て行くことが必要。

(5) その土地のしきたりを理解した上で、現状を打破するために時に「よそ者、若者、バカモノ」の立場をとる（借りる）ことも必要。

(6) 主役は被災者であり、イベントが成功した場合は現地の方々の頑張りをたたえる。これが今後の復興のパワーの源となる。支援者は、あくまでも裏方で通す。

(7) 復興イベントは誰のためか？ それは被災者のためであるとともに日本全体のためであることを忘れてはいけない。他人事ではなく、自分事になったとき、継続の難しさより継続のアイデアが湧いてくる。

#### 5. 結論

復興イベント開催の目的は多々あるが、重視すべき成果は「心の復興」につなげることである。そのためには、①被災地・被災者が主役となり、②関わるすべての人がその土地の文化やしきたりを尊重し、③被災者は外部のサポーターの思いを受け止め、④外部のサポーターは被災者にしっかり寄り添う、そして⑤イベント終了後も日本の未来を作っていく同士として関係を続けていく。これらのことがポイントになると考える。

つなみで多くのものを無くした沿岸部に箱モノを作ったり、街ごと移転を余儀なくされた方々が新たな集落やコミュニティを創造したりしていくにはまだまだ時間がかかる。多くの不安を抱える被災者に、心の復興支援として、寄り添いながらイベントをともに作り上げることは規模の大小を問わずとも意義を感じる。

今回の発表が、これから復興支援に関わるの方々にとって少しでもお役に立てたとしたら幸いです。

また、このような発表の機会をくださったイベント学会様に感謝いたします。ありがとうございました。